

風景写真における橋梁の印象度調査

信州大学工学部 ○水谷 孔亮
信州大学工学部 正会員 清水 茂

1. はじめに

これまでの研究では、さまざまな橋梁景観について評価がなされているが、それらは主として画像の中の橋梁部分を評価対象としている。しかし、橋梁のみに重点を置いた評価では、適切な評価ができない可能性がある。言い換えると、橋梁を含む風景であったとしてもその橋梁が風景の主役の位置を占めているとは限らない。すなわち、橋梁が最も印象に残る存在であるとは限らない。

そこで、本研究では、人々がどのような橋梁ならば印象に残り、またどのような橋梁ならば印象に残らないのかということをアンケート調査によって明らかにし、その特性を知るということを目的とする。

2. アンケート調査方法

アンケート調査は、橋梁の印象度についてのアンケート調査であることをアンケート対象者に伏せるため、橋梁の含まれる写真 7 枚の他に、橋梁の含まれない写真 8 枚を用いた。アンケートⅠ部につき写真は 7 枚とし、橋梁の含まれる写真と、橋梁の含まれない写真を交互に入れた。写真も無作為に抽出し 15 通りのアンケートを作成した。

アンケート方法としては、対象者に写真を見てもらい、景観全体の印象を「非常に良い」「良い」「悪い」「非常に悪い」の 4 段階に評価をしてもらう。次に、写真の中から印象に残ったものを、順序をつけて 3 つ書いてもらい、その印象に残ったものについても 4 段階に評価をもらう。そして最後にその理由について「色」「大きさ」「形」「その他」から選んでもらうという形をとった。

対象者は信州大学工学部社会開発工学科 1 年の学生 96 名とする。用いた橋梁は、「港大橋」「ミンスター橋」「かつしかハープ橋」「上田ローマン橋」「米山大橋」「アンダーソン橋」「4 月 25 日橋」の 7 つの橋梁である。

3. アンケート調査結果

3.1 港大橋

表 1 に示すように、全体としての評価は「悪い」という印象をもった解答が多かった。しかし、印象に残ったものの中で橋梁と答えた方の大半は橋梁の印象は「良い」と解答した。つまり、橋梁としての印象は良いが、景観として全体

を見ると良くないものになってしまうという結果になった。また、表 2 から、印象に残った理由の中では「色」が最も多くなっている。港大橋の塗色は周知のように赤色である。赤は心理学的に目立つ要素として考えられており、今回の



図 1 港大橋



図 2 アンダーソン橋



図 3 ミンスター橋

表 1 景観全体と橋の印象評価

	港大橋		アンダーソン橋		ミュンスター橋	
	景観全体	橋梁のみ	景観全体	橋梁のみ	景観全体	橋梁のみ
非常に良い	3	7	4	4	24	10
良い	18	28	20	20	16	26
悪い	25	9	14	2	6	0
非常に悪い	1	1	4	0	0	0
計	47	45	42	26	46	36

表 2 印象に残った順と理由

(a) 港大橋

	色	大きさ	形	その他
1番目	30	12	9	1
2番目	3	0	0	1
3番目	1	0	0	0
合計	34	12	9	2

(b) アンダーソン橋

	色	大きさ	形	その他
1番目	0	0	2	0
2番目	3	3	3	0
3番目	4	2	10	1
合計	7	5	15	1

(c) ミュンスター橋

	色	大きさ	形	その他
1番目	0	0	2	0
2番目	3	3	3	0
3番目	4	2	10	1
合計	7	5	15	1

表 3 橋梁が印象に残った割合

	1番目	2番目	3番目	合計
港大橋	0.85	0.09	0.02	0.96
アンダーソン	0.05	0.21	0.37	0.63
ミュンスター	0.11	0.33	0.35	0.78

調査でも印象に残りやすかったと考えられる。また、表 3 から、橋梁がかなり印象に残る結果となっており、1 番目に印象に残ったという解答が 85 % と非常に多い結果となった。

3.2 アンダーソン橋

表 1 に示すように、景観全体としては「良い」という解答が多かったものの、「悪い」という解答もそれなりにあった。しかし、橋梁のみの印象は「良い」という解答が多く、こちらも港大橋と同様に橋梁自体の印象は良いものでも景観全体としてみると良くないものになってしまうという結果になった。また、表 2 から、印象に残った理由として多かった項目は「形」と「色」で、日本であまり見られない姿の橋梁であり、

周囲が木々で囲まれ暗い中に白い橋梁があるので印象に残ったのではないかと考えられる。さらに図 2 のように、橋梁の左側が木によって隠れているため全体を見渡せないようになっており、表 3 にあるように 1 番目に印象に残ると答えた方はアンケート対象者全体の 10% を切っていた。また、1 番目から 3 番目までのいずれかに印象に残ったという解答も 60% 程度と全体を通して印象に残りにくいという結果になった。

3.3 ミュンスター橋

表 1 から、景観全体について「良い印象」以上の評価が非常に多い結果となった。また、橋梁だけの印象に着目すると、悪いという解答は 1 人もおらず、橋梁の印象は調査結果の中で最も良いものとなった。また、表 2 から、印象に残った理由として「色」という解答が非常に少なかった。これは、前述のアンダーソン橋と違い、周りの色にうまく溶け込んでいて、目立たなかったためと考えられる。さらに、左に大きく写る塔によりで、表 3 に示すように、橋梁が 1 番目に印象に残った割合は 1 割程度と印象に残りにくかったのではないかと考えられる。

4. 考察

ここで述べた 3 橋以外の橋についての結果も含め、全体として橋梁自体の印象はそれほど悪いものではなかった。しかし、周囲の環境の結果、全体の印象として悪いという評価を得たものが数多くみられた。また、赤い橋梁については印象に残りやすく、白い橋梁については印象に残りにくいといった結果も得られた。つまり、色は印象に残るか残らないかで重要な要素になると考えられる。

5. まとめ

今後はその他の写真の調査結果を進め、印象に残る橋梁に共通する点、残らないものに共通する点を調べていく。また、橋梁の写っていない写真も参考にし、印象に残りやすいものと、印象に残りにくいものの特徴を調べていくことにより、印象に残る橋梁、印象に残らない橋梁というのはどのようなものなのかということ进行调查していく。